



# 事例で学ぼう！ SDGsで地方創生



株式会社グリーゼ  
<http://gliese.co.jp/>

## 講師



株式会社グリーゼ 取締役  
福田 多美子（ふくだ たみこ）



- SDGsビジネスコンサルタント  
（一般社団法人SDGs支援機構認定）
- SDGsカードゲーム・ファシリテーター  
（SDGs de 地方創生／SDGsアウトサイドイン／ゲットザポイント）
- セールスフォース・ドットコム認定  
Pardotコンサルタント
- マルケト認定エキスパート(MCE)

SDGsビジネスコンサルタントとして、企業向けのコンサルティング、コンテンツ制作、社員研修などを担当。SDGsカードゲームのファシリテーターとしても活動中。

デジタルハリウッド、宣伝会議、大手前大学（通信教育部）などで、「Webライティング講座」の講師を務める。著書に、以下5冊がある。



株式会社グリーゼ コーポレートサイト



<https://gliese.co.jp/>

オウンドメディア  
「コンテンツマーケティングの成功  
法則」



<https://gliese.co.jp/success/>

SDGsページリンク集  
「SDGs message collection」



<https://gliese.co.jp/sdgs/>

# 本日のテーマ「SDGsで地方創生」

1. なぜ「SDGsで地方創生」なのか？  
～サステナブルツーリズムとの関係～
2. 事例 1：群馬県 みなかみ町  
～自然と森を活かした地方創生～
3. 事例 2：群馬県庁  
～官民共創コミュニティで地方創生～
4. 事例 3：北海道 浦幌町  
～子どもと学校が主役・教育で地方創生～
5. 事例 4：鹿児島県霧島市  
～企業目線、経済を意識した地方創生～
6. 事例 5：島根県邑南町  
～ A級（永久）グルメ構想、食での地方創生～
7. まとめ



本日のテキストを  
ダウンロードしてください

# 1. なぜ、「SDGsで地方創生」なのか？ ～サステナブルツーリズムとの関係～

# 1 - 1

## SDGsとサステナブルツーリズム

# SDGsとは

SDGs : Sustainable Development Goals

「持続可能な開発目標」という意味

基本理念「誰ひとり取り残さない」

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



2030年に向けた  
17の目標が  
掲げられている

国連加盟193か国が、  
2016年～2030年の  
15年間で達成する  
行動計画

2015年9月、ニューヨークの国連本部で「国連持続可能な開発サミット」が開催され「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択された。



# 旅行業界×SDGs ～サステナブルツーリズム～

## マスツーリズムから、サステナブルツーリズムへ



### マスツーリズム：旅行の大衆化

第2次世界大戦後の経済発展を背景に、それまで富裕層に限られていた観光旅行が、幅広く大衆にまで拡大した現象を指す。1950年代に米国で現れ、その後、欧州に広まった。日本は、1970（昭和45）年の大阪万博を境に旅行の大衆化が一気に進んだ。

### サステナブルツーリズム：地域の文化、環境に配慮した旅行

観光地の本来の姿を持続的に保つことができるように、観光地の開発やサービスのあり方を見定め、旅行の設定を行うこと。マスツーリズムの進展により、環境汚染や自然破壊などの現象が見られるようになった。この反省から、**地域の文化や自然環境に配慮し、本物を体験し味わうことなどを通し、観光地に住む住民と観光客とが相互に潤うことが重要**との考えが生まれてきた。



出典：JTB総合研究所  
<https://www.tourism.jp/tourism-database/glossary/sustainable-tourism/>

出典：みなかみ町観光協会  
<http://www.enjoy-minakami.jp/>

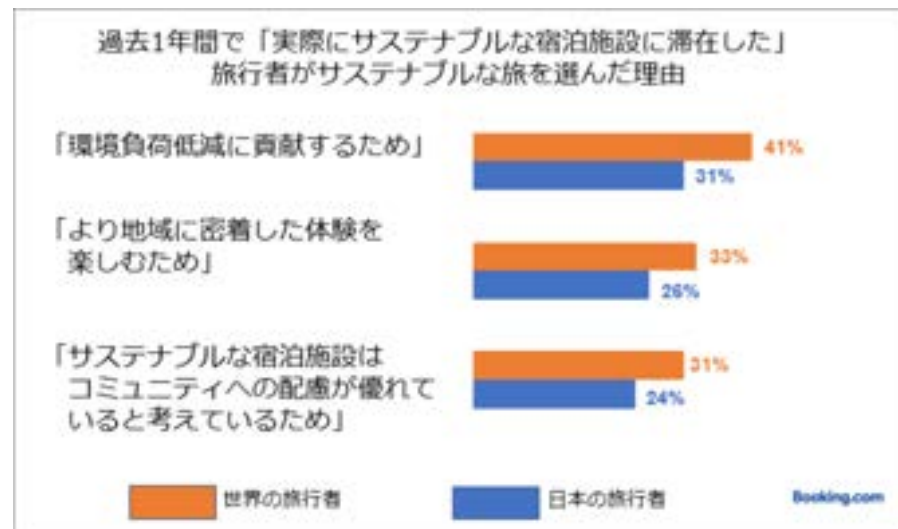
日本版持続可能な観光ガイドライン  
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001350848.pdf>

## サステナブルな旅行は、重要か？

- 「サステナブルな旅は、自分にとって重要である」



- 過去1年間で「実際にサステナブルな宿泊施設に滞在した」旅行者がサステナブルな旅を選んだ理由



**34%の旅行者は、「実際に地域社会に良い影響を与え、還元をするための活動やツアーをどこでどのように探せばよいのかわからない」**

出典：ブッキング・ドットコム、2022年の「サステナブル・トラベル」に関する調査結果  
<https://news.booking.com/ja/sustainable-travel-report-2022/>



## 2023年4月、サステナビリティ観光学部新設

- 立命館アジア太平洋大学（APU）は、2023年4月、サステナビリティ観光学部新設



立命館アジア太平洋大学（APU）  
<https://www.apu.ac.jp/home/>

# 1 -2 SDGsで地方創生

# 少子高齢化・人口減少・都市集中の問題



明治維新以後、人口が急増  
2008年にピークを迎えた  
その後は減少の一途を辿り  
2100年には約5,000万人となると予測

## 【課題】

- ・ 労働人口の減少
- ・ 国力低下
- ・ 経済規模縮小
- ・ 社会保障制度と財政の問題
- ・ 都市集中と地方創生



出典：人口減少×デザイン  
issue+design 筧裕介 著

# なぜ、SDGsで地方創生？

## SDGsの考え方が、地方創生の原動力になるから！

内閣府では「地方創生SDGs」というWebサイトを作り、SDGsを原動力とした、地方創生を推進している。



地方創生SDGs  
<https://future-city.go.jp/sdgs/>

## 2. 事例1：群馬県 みなかみ町 ～自然と森を活かした地方創生～



みなかみ町役場  
町民福祉課 大川志向さん



みなかみ町役場 総合戦略課所属  
須田さん

## 群馬県 みなかみ町

- 人口：約18,000人
- 9割が、山林（国有林含む）
- 上信越高原国立公園をはじめとするさまざまな自然保護区に指定
- 利根川源流の町
- 「みなかみ18湯」温泉の町



\* 中山間地域  
中間農業地域と山間農業地域を合わせた地域を指す。  
山地の多い日本では、中山間地域が総土地面積の約7割を占めている。



水上温泉のイメージから川を使ったラフティングなどのアクティビティ  
谷川岳などアウトドアの町へ

- ✓ 少子高齢化、公共施設や温泉施設の老朽化、スキー場経営悪化など日本の中山間地域でよくある課題
- ✓ いのしし、さる、くまなどの獣害 → 生活の安全性が守られない

# 取組み（1）ユネスコエコパーク と SDGs未来都市

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の認定制度

- ・世界自然遺産：手つかずの自然を守る
- ・ユネスコエコパーク：自然と人の調和と共生

＊世界のユネスコエコパークの登録総数  
129か国、714地域（2020年10月現在）



【SDGs未来都市】

みなかみ町は、SDGs未来都市開始2年目で認定された

みなかみ町 SDGs未来都市計画

～水と森林と人を育む みなかみプロジェクト2030～



**ユネスコエコパーク、SDGs未来都市は  
みなかみ町を多くの人に認知してもらおうきっかけになった  
移住が増えたきっかけにもなった！**

出典：ユネスコエコパークパンフレット  
[https://www.mext.go.jp/content/20201203-mxt\\_koktou02-100014731\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201203-mxt_koktou02-100014731_1.pdf)

出典：みなかみ町 SDGs未来都市計画 ～水と森林 もりと人を育む みなかみプロジェクト2030～  
<https://www.town.minakami.gunma.jp/politics/04machikeikaku/sdgs/files/sdgsmiraitosikeikaku.pdf>



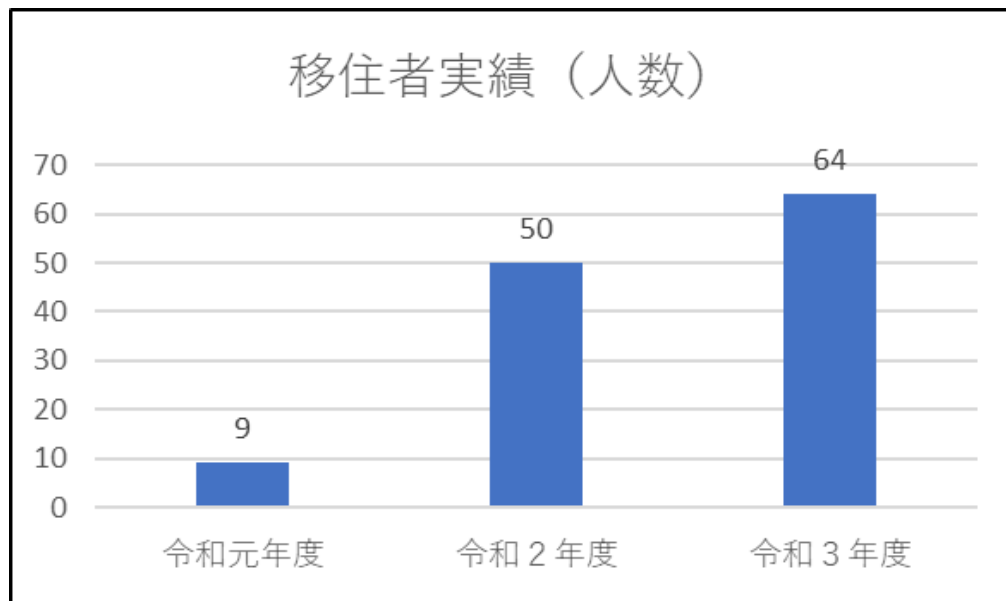
# 取組み（２）自伐型林業

- 自分達の山を、自分達の手で管理する  
(森林組合に任せきりではダメ)
- 産業でありながら、環境、教育、などにも関連する
- 6～7年前から研修開始、毎年町民が40人～50人参加
- そのまま活動を始めている10団体
- 川で遊んでいる人たちが「この水はどこから来ているんだろう」と考え、山に注目
- 林業って難しいと思っていた人が、研修を受けて取り組み始めるケース
- 「夏は川、冬は山」に取り組み、雇用を生み出す効果も





## 取り組みの成果（移住）



SDGsに登録されたからこの結果というわけではなく、担当者が変わって取組が変わったことが一番の要因です。そこに、コロナやSDGsがプラスに作用したという感じでしょうか。（大川様）

### 1) 移住者の増加

**22年度：21組59人の移住**

### 2) さまざまな形での関係人口の増加

持続可能な地域を作るためには、移住者も大事だが、関係人口を増やすことが大事

移住 2拠点生活 リピーター 観光客 支援 ふるさと納税

企業からの支援 寄付 支援金

## 取り組みの成果（移住→新規ビジネス）

移住する方が増えている



その方々がハブとなりさらに輪が広がる



地域課題の解決に結びついている



WEBメディア

<https://www.minakami-genryu.com/>



Licca（リッカ）

<https://www.licca-from-minakami.com/>



さなざわ岬テラス

<https://sanazawa.jp/>



テレワークセンターMINAKAMI

<https://tw-g.org/minakami/>



ゲストハウス&コワーキングほとり

<https://www.hotori-minakami.com/>



みなかみ町移住・起業チャレンジ支援

<https://www.minakami.work/>



Play Fujiwaraプロジェクト

<http://play-fujiwara.net/about>

## 取り組みの成果（企業との取り組み）



### 楽天ドローンアカデミー

<https://academy.drone.rakuten.co.jp/>

楽天グループが新しく始めるサービスをみなかみ町で開始。今後、需要が見込まれるドローンのパイロットを養成するアカデミー。みなかみ町所有の遊休施設をリノベーションして座学とフィールドを提供。



### オープンハウス×群馬銀行×東京大学

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000110.000024241.html>

水上温泉街をメインとしてまちの活性化に向けて連携協定を締結。温泉街の廃屋の撤去・活用、スキー場の経営改革などですでに実績あり。



### オークヴィレッジ

<https://www.oakv.co.jp/company/local-woods.html>

岐阜県高山市の国産広葉樹にこだわった高級家具メーカーと連携協定を締結。町が掲げる「森林を守るための林業（自伐型林業）」により搬出された木材に価値を見出してくれている。みなかみ町オリジナルの商品を作成販売いただき、地域活性化を目指している。

## まとめと補足

- ユネスコエコパークと、SDGs未来都市に選定されたこと  
知名度を上げる意味でインパクトが大きかった

移住者は、エコパーク、未来都市をきっかけに、移住してきた人が多い

町民の理解も得やすくなった

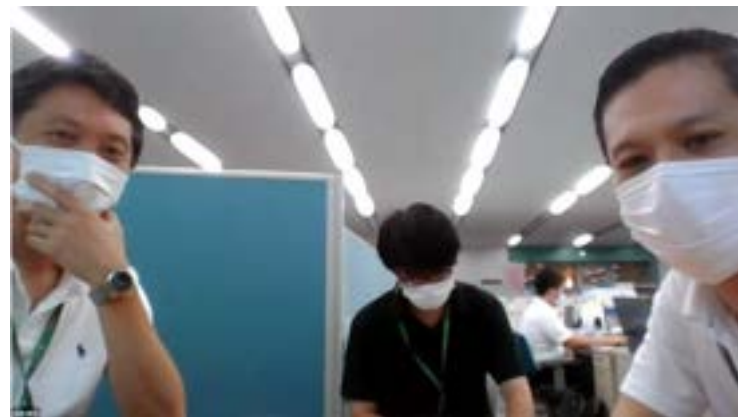
- ・ ユネスコエコパークへ登録されたことを知っているか？  
→知っている70%、登録&趣旨を知っている15%、知らない15%
  - ・ SDGsという名前や内容を知っているか？  
→知っている42%、聞いたことはある30%、知らない28%
  - ・ SDGs未来都市の趣旨を知っているか？  
→選定されたことは知っている23%、選定・趣旨を知っている7%、知らない70%
- \* 認知度については年々上昇中

- ワークーションの取り組みなどでも認知が高まって、移住が増えたり  
企業が取り組みのパートナーとしてみなかみを選んでくれる

# 3. 事例2：群馬県庁 ～官民共創コミュニティで地方創生～



群馬県  
知事戦略部戦略企画課 総合計画・EBPM推進室  
萩原一意様 村上 敬亮様



群馬県  
知事戦略部戦略企画課 未来創生室  
原口大樹様 小野里典明様 津田等様

# 群馬県

- 鶴舞う形の群馬県
- 人口194万人（令和4年1月31日時点）

東京への通勤や、東京と群馬の両方に拠点を持つ二地域居住にも適しています。



草津、水上、伊香保などの温泉が多い



世界文化遺産 富岡製糸場

出典：群馬への移住を考える人のためのライフスタイルWEBマガジン  
<https://gunmagurashi.pref.gunma.jp/about/gunma/>

# 2021年、県としてSDGs未来都市に選定

- 令和3年度（2021年） 「群馬県」として、SDGs未来都市に選定

## 1 タイトル

ニューノーマルを先導する持続可能で「快疎」な群馬の実現

## 2 目指す姿

群馬の土壌とデジタルを掛け合わせた新たな価値の創出や、**県民総活躍社会の実現**、脱炭素社会づくりはじめとした、経済・社会・環境の三側面の課題を官民が連携して解決し、持続可能で他にはない価値を持つ「快疎」な群馬を目指す。

群馬県の外に対してまた県民に対して群馬県がSDGsに本格的に取り組んでいるということを周知するためのツールとしての役割に注目した



SDGs未来都市は全国で154都市

都道府県として選定されているのは、以下

北海道／新潟県／富山県／福井県／長野県／岐阜県／愛知県／三重県／群馬県／埼玉県／神奈川県／滋賀県／大阪府／鳥取県／広島県／沖縄県

# 2040年の「目指す姿」をバックカスティング思考で策定

- バックカスティング思考で、県民の幸福度向上に向けた「目指す姿」を策定

ビジョンが目指す  
**2040年の群馬県の姿**

ビジョンは、2040年までの群馬県を取り巻くさまざまな環境の変化を見通した上で、県民の幸福度の向上に向けた「目指す姿」と「実現へのロードマップ」をバックカスティング思考で描いたものです。

- **目指す姿**  
年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型の社会
- **計画期間**  
2023年～2040年(20年間) ※計画期間中、県に時代の変化や変化を踏み取り策動に対応する。



● **目指す姿**  
年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、すべての県民が、**誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型の社会**

「始動人」の育成と、「官民共創コミュニティの創出」を推し進めて、2040年に誰もが幸福を実感できる「快疎な群馬県」を作る

- ビジョンの実現に向けた3つのキーワード

**01** 快疎

**快疎**  
VISION 2040

目指すは「快疎」な群馬県



**02** 始動人

始動人  
VISION 2040

他人が目指していない領域で動き出す【始動人】



**03** 官民共創コミュニティ

官民共創  
VISION 2040

「官民共創コミュニティ」が100年持続する公共をつくる





# 03

かんみんきょうそうコミュニティ



## 「官民共創コミュニティ」が 100年持続する公共をつくる

今、世界中で、産学官民が多様な分野で連携し、地域の課題を解決する挑戦が進められています。ビジョンでは、こうした取組を改めて「官民共創コミュニティ」という言葉で表現しています。官民の力がつながることが、公共にイノベーションを生みます。共創の重要性を再認識し、県内各地でこの活動を加速させていきます。この中核的な拠点として県庁32階に官民共創スペース「NETSUGEN(ネツゲン)」を設置しました。



# 取組み（1）官民共創コミュニティNETSUGEN （群馬県庁32階官民共創スペース）

- セクターや業種が異なるユーザー同士でも、気軽に交流できるよう空間
- 最新の技術や知見を取り入れた企業やNPO、大学や研究機関に加え、地域課題解決に取りくむ市町村・県と直接交流できすスペース
- 新たなビジネスや地域課題の解決に向けたシーズが生まれる場所

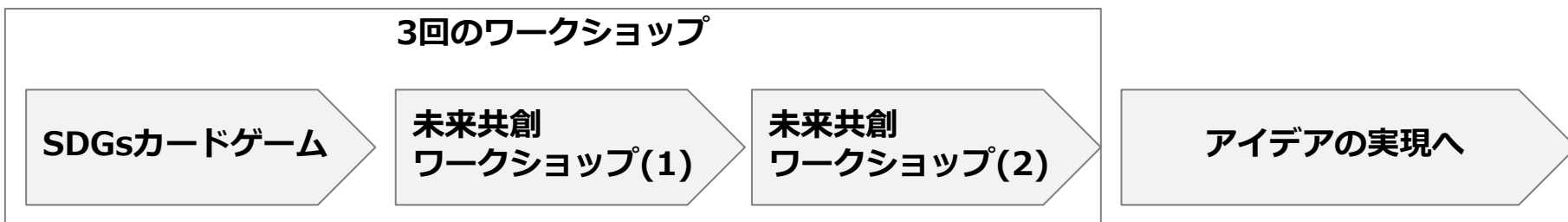
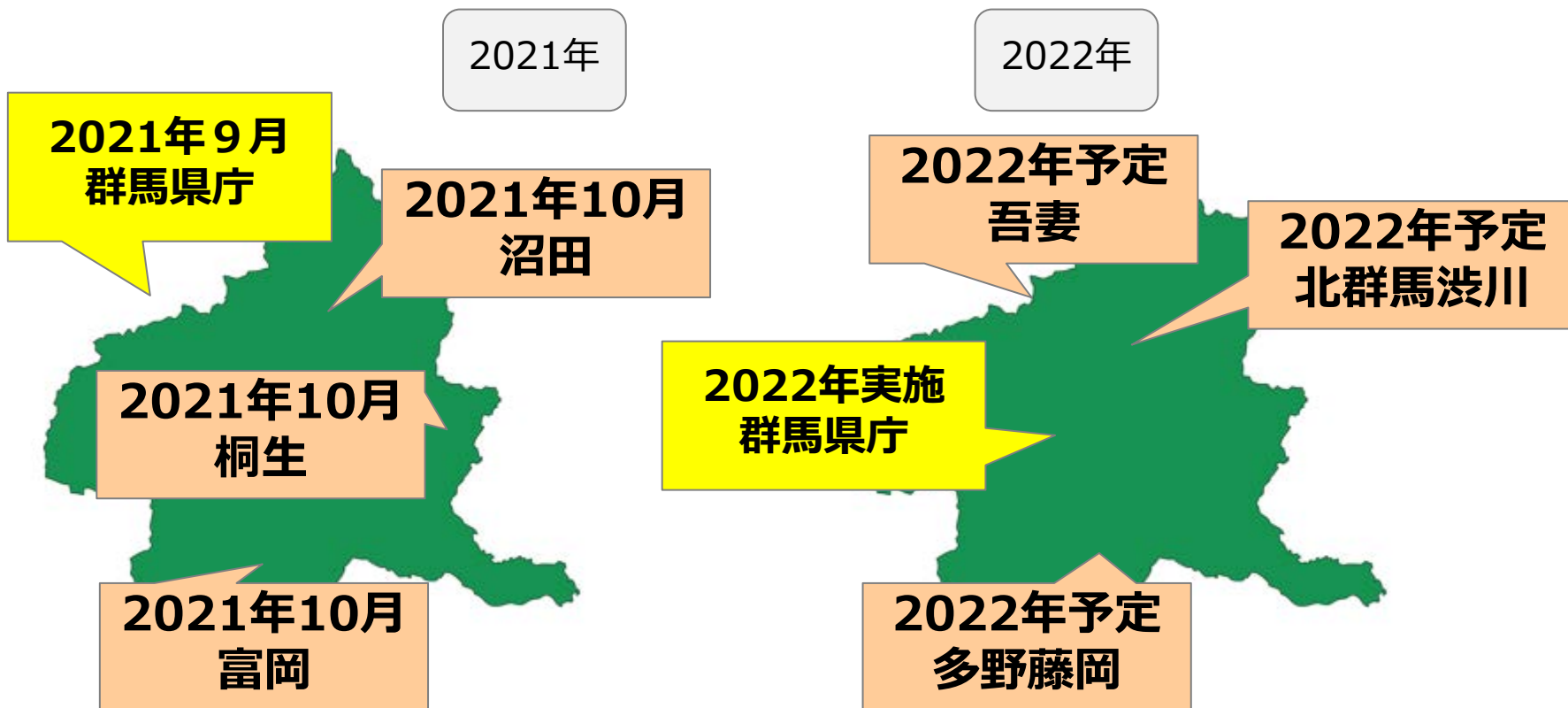
NETSUGEN 基本コンセプト  
デジタルとリアルが融合し、新たな価値を生み出すハイブリッド型NETSUGENのコンセプトを構築しています。



県庁の32階という場所に、NETSUGENがあるということが、県として「官民共創コミュニティ」が群馬県にとって重要なことであるということ象徴する役割を担っている



# 取組み（２）県民総活躍社会の実現に向けて ～未来共創ワークショップ～



# 取組み（２）県民総活躍社会の実現に向けて ～未来構想ワークショップ～

- 2021年に1年目、2022年に2年目を迎えている取り組みです。

SDGsカードゲーム

未来共創  
ワークショップ(1)

未来共創  
ワークショップ(2)



# 未来構想ワークショップ

SDGsカードゲーム

未来共創  
ワークショップ(1)

未来共創  
ワークショップ(2)

群馬から世界に発信する「ニューノーマル」  
～誰一人取り残さない自立分散型社会の  
実現に向けて～

各地域で、地域住民参加型のワークショップを実施



湯けむりフォーラム

<https://yukemuriforum-gunma.jp/program/co-creation2021/>

All rights reserved by Gliese Co.,Ltd.

# 未来構想ワークショップ

群馬から世界に発信する「ニューノーマル」  
～誰一人取り残さない自立分散型社会の実現に向けて～

- 未来構想ワークショップは、2回×約7時間
- 地域のファシリテーター研修4回

エリア	参加者	チーム数	検討テーマ	未来の種
甘楽富岡 エリア	50名	7チーム	富岡市が「持続可能で環境に配慮した農林業」「移住の促進」「魅力ある観光地づくり」の3テーマ、甘楽町と下仁田町が「移住定住の促進～良質な住環境と空き家の活用～」、南牧村が「地域資源としての空き家の利活用」、そして共通テーマ「多世代が交流できる居場所づくり」の6テーマ	7テーマ 31アイデア
利根沼田 エリア	44名	6チーム	沼田市が「免許返納が進んで自家用車が利用できない人が増える地域での移動手段確保」、片品村が「地域の資源を活かした住み続けたい村づくり～移住定住のために～」、川場村と昭和町が「移住者や関係人口を受け入れる素地づくり」、みなかみ町が「この地域の森林資源（＝水資源）がもつ価値の再認識」の4テーマ	6テーマ 22アイデア
桐生みどり エリア	49名	7チーム	桐生市が「SDGsの理念を市民一人ひとりが自分ごとにするためにできること」、「コロナ禍での子どもの居場所づくりのあり方」の2テーマ、みどり市は「市民が主体となり地域内での連携が生まれる健康増進事業のあり方」、「森林の新たな価値の創出」、「移住定住対策のコロナ禍での効果的なPR」、「市民活動・地域活動の新たな担い手確保」の4テーマ、そして共通のテーマ「高齢者や家庭環境に恵まれない子どもたちのICTリテラシー向上」の7テーマ	7テーマ 32アイデア

湯けむりフォーラム

<https://yukemuriforum-gunma.jp/program/co-creation2021/>

# 成果(2021)



## エリア別の未来の姿

各市町村が話し合いテーマを持ち寄る

↓  
テーマごとに「課題の構造図」を描く

↓  
課題の構造図を基に「問い」を立てる

↓  
問いを解決する「アイデア」を出す

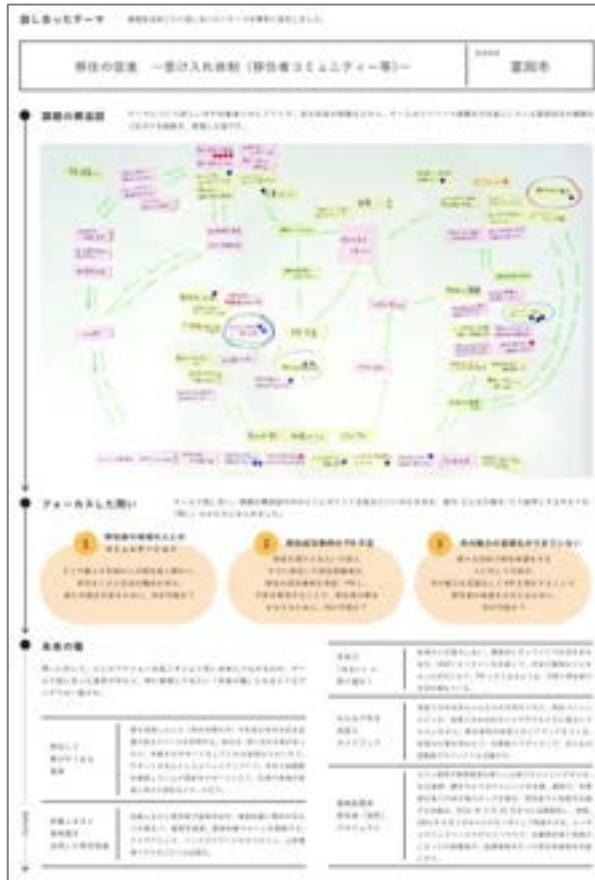
↓  
エリアごとの「未来の姿」としてまとめる

**【ポイント】**  
テーマの解像度が大事

- ×移住・定住
- 移住・定住者への空き家の活用
- 移住・定住者の仕事
- 移住・定住者の子育て

# 例) 移住の促進～受け入れ体制 (移住者コミュニティ等) 富岡市

課題の構造図→フォーカスした問い→未来の種の順番にディスカッション



## フォーカスした問い

チームで話し合い、課題の構造図の中のどこにポイントをおくといいいのかを定め、どの-どんな行動を-どう後押しするのか?を、「問い」のかたちにまとめました。

- 1 移住後の地域の人とのコミュニケーション**

そこで暮らす地域の人が移住者と関わり、年代をこえた交流の機会を持ち、新たな視点を知るために、何が可能か?
- 2 移住成功事例のPR 不足**

移住を受け入れたい行政とすでに移住した移住経験者が、移住の成功事例を発信・PRし、不安を解消することで、移住者の夢をかなえるために、何が可能か?
- 3 市の魅力の言語化ができていない**

様々な目的で移住希望をする人に対して行政が、市の魅力を言語化してPRを強化することで、移住者の希望をかなえるために、何が可能か?

## 未来の種

問いに対して、どんなアクションを起こすとより良い未来につながるのか、チームで話し合った意見の中から、特に実現してみたい「未来の種」となるようなアイデアの一覧です。

移住して夢が叶うまち富岡	夢を実現したい人(市内外問わず)や移住が市内の空き店舗や空きスペースを利用する。例えば、安く住める家があったり、手続きのサポートをしてくれる地域の人があったり、サポートを中心としたコミュニティづくり、市内で就労機会を運営したい人や団体をサポートしたり、役員や地域の役員に向けた移住セミナーも行う。
妙齢ふるさと美術館を活用した移住促進	移住ふるさと美術館で富岡市史や、富岡ゆかりの食料がある人が集まり、富岡写真展、富岡妙齢マルシェを開催する。アイデアとして、バックグラウンドおやつカフェ、土産電話リアルスごろくろの企画も。

本気で「ゆるい」に取り組む!	地域の人が協力しあい、継続的にオンラインで交流を生み出す。SNS+オンラインを活用して、市長が富岡のことをもっと好きになり、PRしにくくなるような、行動と移住者の交流の種をつくる。
みんなで作る「移住入ガイドブック	移住入のおびあちゃんたちが元気なうちに、移住コンシェルジュが、移住入のおびあちゃんや子どもたちに協力してもらいながら、移住者向けの移住入ガイドブックをつくる。地域の行事を知れたり、印刷版イラストマップ、みんなの副産物プロジェクトも企画する。
富岡起業家移住者「結団」プロジェクト	カフェ経営や飲食経営を新しい土地でチャレンジするには、ある程度、準備をすてのチャレンジが必要。富岡で、先輩移住者と行政が協力タッグを組む、共有型PRE起業家支援する仕組み。2022年3月31日までに企業設計し、発表。2022年4月1日から小さな一歩として実践させる。レンタルカフェスペースやゲストハウスで、先輩移住者と熟慮のこもった行政職員が、起業環境をもった移住希望者を対象に行う。

未来構想ワークショップ 甘楽富岡エリア

<https://gunma-v.jp/wp/wp-content/uploads/2022/05/%E3%80%90%E3%83%86%E3%83%BC%E3%83%9E%E5%88%A5%E3%80%91%E7%94%98%E6%A5%BD%E5%AF%8C%E5%B2%A1%E3%82%A8%E3%83%AA%E3%82%A2.pdf>



# 「未来の種」から実現へ

- 「未来の種」から、実現した取り組みも多数。

me Zoom  
-水と私-

2022年3月2日(水)の日!オンライン(zoom)で、WSに参加してくれたみなかみ町の皆さん中心に、「水と私」をテーマに、水にまつわる様々なネタを語らうことで、私たちが生きる上で必要な水資源のありがたさに気づき、資源の豊かさを内外に表現していくプロジェクト。インターネットでのストリートビューガイド付き。

みなかみ町

テーマ：この地域の森林資源(=水資源)がもつ価値の再認識

未来の種：「水と私」をテーマに、水について語り合い、水のありがたさや、水資源の豊かさを内外に表現していくプロジェクト。

【オンライン】3月2日、勝手に水の日「ミズーム(meZoom:私と水)」  
～みんなの水エピソードをZoom使って語ろうな会～



(↓主催者からのメッセージ)

みなさん、通常ですが3月2日は何の日か知っていますか?  
ミコの日・ミコヅクの日・逢山の金さんの日・  
などいろいろあるらしいのですが、「3(み)月2(ず)日」にちなんで、勝手に水の日(みずのひ)としました!しかも驚くことに3月2日は水曜日(なんと3月2日(水)は28年ぶり!)  
今年の水の日は、私たちにとって無くてはならない存在である「水」についてZoomを使ってみんなでウチヤワチヤおしゃべりしませんか?

そしてタイトルは・・・  
水についてZoomでおしゃべりということで「meZoom(ミズーム)」と命名しました!  
みなさんがお持ちの水にまつわる”とっておき”なエピソードを語り、水についてみんなで語らしましょう!

- ・テーマは「水」を計のとてもゆるいおしゃべりイベントです
- ・みなさんのお持ちの「水にまつわるエピソード」について語りたいです
- ・エピソードは何でもOK!水の楽しかった思い出、おいしかった一杯、水の豊かを感じたなど何でもOK!

<https://images.app.goo.gl/qbkGtZh8LtPNWwxTA>

# 「未来の種」から実現へ

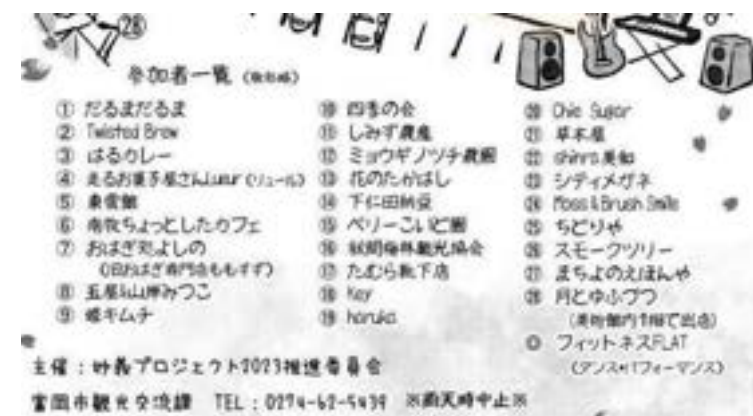
- 「未来の種」から、実現した取り組みも多数。

妙義ふるさと  
美術館を  
活用した移住促進

妙義ふるさと美術館で富岡市民や、富岡妙義に興味がある人が集まり、富岡写真展、富岡妙義マルシェを開催する。アイデアとして、バックグラウンドおやつカフェ、上信電鉄リアルすごろくの企画も。

富岡市  
テーマ：妙義ふるさと美術館を活用した移住促進  
未来の種：美術館で、富岡写真展、富岡妙義マルシェを開催する。おやつカフェ、上信電鉄リアルすごろくも。

妙義ふるさとマルシェ  
<https://www.furusato-web.jp/topics/391177/>



# 「未来の種」から実現へ

- 「未来の種」から、実現した取り組みも多数。

妙義ふるさと  
美術館を  
活用した移住促進

妙義ふるさと美術館で富岡市民や、富岡妙義に興味がある人が集まり、富岡写真展、富岡妙義マルシェを開催する。アイデアとして、バックグラウンドおやつカフェ、上信電鉄リアルすごろくの企画も。

桐生市  
テーマ：SDGsの理念を市民一人ひとりが自分ごとにするためにできること  
フォーカスした問い：

妙義ふるさとマルシェ  
<https://www.furusato-web.jp/topics/391177/>



## まとめと補足

- 地方創生で大事なことは、バックカastingで未来を描くこと

その時に、15年～20年後の未来を描くと、イメージしやすい  
(SDGsも15年後の目標)

- ボトムアップで地に足の着いた取り組みが理想的だが、トップダウンも必要

SDGsカードゲームは、場づくりやコミュニケーションツールとしても良い  
2021年3地域、2022年3地域→県内で実施していく予定

- 県単位での広範囲での取り組みの場合、周知が大事

- ・ NETSUGEN：象徴的な場所を作る
- ・ SDGs未来都市：伝えやすい、わかりやすい取り組み、認証を取得する
- ・ Web、SNS、メディアなどの力を使った広報活動
- ・ 地域との連携をとること（どんどん地域に任せること）

群馬県からのメッセージ

地域によって、課題や状況が異なる。

課題を見極めて、課題に合った切り口、取り組み、方針を考えることが大事。

By 群馬県知事戦略部 戦略企画課 萩原 一意氏

## 4. 事例：北海道 浦幌町様 ～子どもと学校が主役・教育で地方創生～



特定非営利活動法人うらほろスタイルサポート  
うらほろスタイル 門馬理事長  
本間 悠資さん

## 課題

- 北海道・十勝地方の浦幌町
- 人口約4,500人のまち  
30年前は、9,000人の町だった
- 食料自給率は2900%
- 日本全国の「食」を足元から支える  
一大産地である

### 2010年、唯一の高校「浦幌高等学校」が閉校。

当時、4つの小学校（いまは2校）、  
2つの中学校の卒業生が全員地域の外  
の高校に通うことになった。

**高校生が町から消える！**

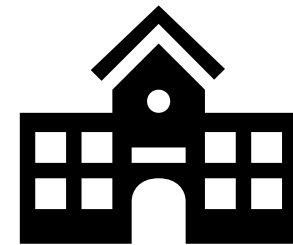
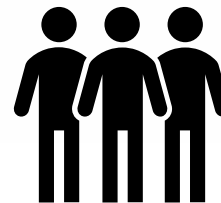
### 学校、先生方の課題

子どもたちに地域の素晴らしさを認識してほしい。**自信をもって、地域の外に出て  
行ってほしい。**それが自分の自信につなが  
れば・・・

とはいえ、先生たちには転勤がある。



うらほろちょう  
**浦幌町**



**地域と学校（小中学校）との  
共創がはじまった**

# うらほろスタイル

地域の子どもたち（小中9年間）に注目した、  
学校が主役となる取り組み

## ■ 活動目的：地域を持続させること

- 社会の持続とは  
「過去」から引き継いだ  
「今（個々の命や地域）」を  
「未来（＝次世代）」に  
引き渡すこと

そのために必要なこと



- 未来の担い手である「子どもたち」に、社会を生き抜く力を身につけてもらうこと。  
大人はそのサポートをすること。
- 今の担い手である大人が責任を持って、子どもたちが夢希望を抱き、「引き受けたい」と思える地域をつくること。



出展：うらほろスタイル  
<https://www.urahoro-style.jp/>

# 地方創生につながる5つの事業

**プロジェクト1 地域への愛着を育む事業**

この事業は、市内の小・中学校で行われる「ふるさと学習」「キャリア教育」を軸として、地域性あるふるさと学習活動～「うらほろスタイル教育」を展開し、地域総ぐるみで子どもたちの学びをサポートし、活発に育めるための取組を目的とします。

[詳しくはこちら](#)



**プロジェクト2 農村つながり体験事業**

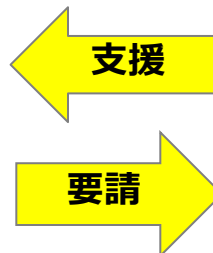
この事業は、市内の農村部で体験学習を実施。第1次産業や「食」「農」の体験を内容とし、「大田原市域に生かされている」という視点から「食」の体験に重点を置いて実施します。市内の小・中学校が対象で、市内の各小・中学校で実施されます。

[詳しくはこちら](#)





小学校・中学校



うらほろスタイル

- 「プロジェクト1 地域への愛着を育む事業」「プロジェクト2 農村繋がり体験事業」は小中学校9年間のプログラム。
- 地域総ぐるみで子どもたちのふるさと学習・キャリア教育をサポート。
- ふるさとの魅力再発見等を通じ、社会を生き抜く力と地域への愛着を育む。

## 「うらスタ教育」：9年間の教育カリキュラム

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
 自然体験学習	 うらほろ町探検 さけの町小見学	 農園活動 福祉学習	 日立建機見学 森林体験学習	 農村体験学習	 R&B活動:太陽への手紙 さけのさほき方教室	 職業しらべ	 職業体験	 地域活性化案
								



# うらスタ教育の例とアウトプットの場

**伊国と関わる**

地域の人々との触れ合いから、ふるさとへの愛着を高め、自分の考えを主体的に表現する力を身に付けることができる。

**5年生**

**民泊体験学習**

地域の農林漁家さんの家に宿泊しながら生活体験を行います。第一次産業の体験を通して、働くことへの意義、人とのつながりや温かさ、食の大切さについて学びます。

- 地域と関わる民泊体験学習
- 学校行事としての「川遊び」「雪ぞり遊び」
- 町内施設や町内企業を巡って、地域の人たちとの交流

## 「うらスタ教育」9年間の集大成「地域活性化発表会」

**9年間の集大成**

平成19年度から始まった浦幌中学校の  
**地域活性化案発表会**の提案

## 町の課題に向き合い アイデアを提案

### 町の課題に向き合い、アイデアを提案

大好きな町をもっといい町にしたい!

これを実現するため  
大人が奮闘!

# アイデアから、商品、キャラクター、イベントが誕生

## プロジェクト3 子どもの想い実現事業

浦幌の秋力や情熱に触れ、子どもたちの、「こんな町になったらいいな」という思いや願い、「町の活性化のためにこんなことをしたらいいな」という夢が生まれた町への投資や企画を大人たちの手で実現するために、町民有志のワークショップなどを実施します。

詳しくはこちら



子どもたちのアイデアから

- ・地元食材を活用した弁当・スイーツ
- ・地域キャラクターの誕生
- ・新しいイベント

など、町おこしの成果がある

すぐに実現するアイデアもあれば実現困難なアイデアもあるが、それを放置しないで、まちの大人たちが真剣に向き合うことが大事。

大人たちのかかわり方によって、地域の外に出て行った高校生たちが「浦幌部」を作って地元で活躍している。

## 実現例



ふわふわドーム「ウラッピー」



浦井



タコんぶライス



かぼパン

# 高校がないまちの、高校生たちの取り組み「浦幌部」

## プロジェクト4 高校生つながり発展事業

高校がない浦幌で9年間のおらほろスタイル教育を受けて別々の高校へばらばらにまぎしても、浦幌で活動するために高校生たちが自ら結成したのが「浦幌部」です。この事業では「浦幌部」の主体的な活動のサポートと、そんな彼らにキャリア支援プログラムを提供します。

詳しくはこちら



- 浦幌高校が閉校

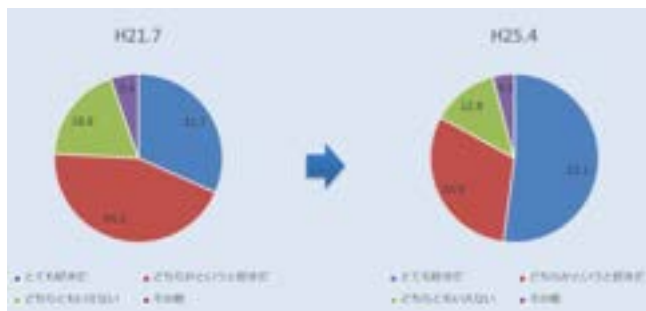
まちの外の高校に通う高校生たちが「引き続き、浦幌町と関わり続けたい」と立ち上がったのが「浦幌部」

- 浦幌部の高校生たちは、異なる高校に通いながら定期的に集まり、地元のための活動。



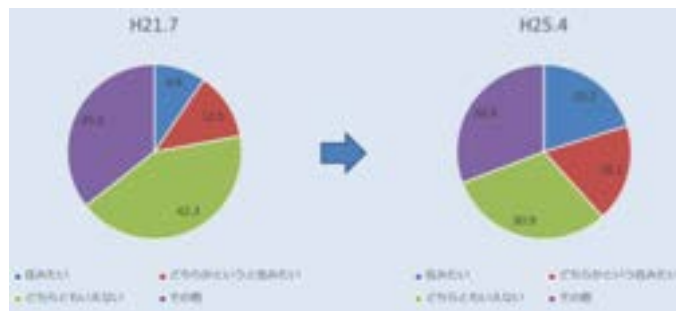
「浦幌町は好きですか？」

とても好き：31.7%→52.1%



「浦幌町に住みたいですか？」

住みたい・どちらかというに住みたい：22.1%→38.3%



198人の転入

# 転入増加の背景には、プロジェクト5の仕事創出事業あり

## プロジェクト5 若者のしごと創造事業

うらほろスタイル教育を体験した最初の世代が成人を迎えた時、「浦幌に住みたいけど、仕事がない」という切実な声があがりました。この事業では、浦幌の子どもたちや若者が将来も浦幌に住み続けるために、新事業を生み出し、魅力ある雇用機会を創出します。

詳しくはこちら



うらほろ町の花である「ハマナス」に関するアイデアやプロジェクトも多数

## ハマナスプロジェクト

ハマナスの活用(平成19年)・NEW特産品(同)・ハマナスジャム・ハマナス弁当(20年)・うらまん(同)をまとめたもの。ハマナスは浦幌町の花として認定されているので、郷土学習の一環として学校教育に取り入れるため小学校にハマナスの苗が配られました。



Rosa rugosa (ロサ・ルゴサ)  
<https://rosa-rugosa.jp/>

## まとめと補足

- 「うらほろスタイル」は、**子どもたちや学校に焦点を当てたことが成功の秘訣**  
「主体は学校である」という認識を貫いていること  
もともと市民の活動であり、行政も関わっているが、あくまでも子どもたちが主役で、学校の活動としての打ち出し方をしている。
- 子どもたちが変わることによって、地域の大人たちが変わる（協力者が増える）  
子どもたちとの交流を通して、自分達の「当たり前」が「当たり前ではない」と気づき、誇りをもって、年々わかりやすく子どもたちに伝えるように工夫してくれている
- 一度に地域全体に広げようと思わずに、一部の応援者がいればいい
- **まちづくりの活動を、学校と一緒にここまで仕組み化できているのは浦幌だけという自負がある。**



十勝うらほろ楽舎  
<https://uragaku.or.jp/>



NPO法人 食の絆を育む会  
<https://www.shokuhug.com/>



教育新聞  
<https://www.kyobun.co.jp/close-up/cu20220808/>

# 5. 事例：鹿児島県霧島市 ～企業目線、経済を意識した地方創生～



株式会社無垢 代表取締役  
NPO法人薩摩リーダーシップフォーラムSELF  
古川理沙氏

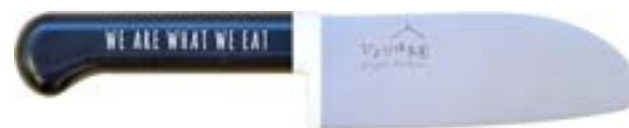


# ひより保育園 2017年



テーマは「食」  
なぜ、「食」に注目したのか？

- ・生きる力の強い子を育てたいと思った
- ・子どもたちの自主性、最初から最後までやりきることを大切にしたい
- ・子どもたちにとって、効果の高い学びって何だろう？
- ・教材費と食費がイコールになればいいと思って「食」に注目した
- ・PDCAがすぐに回せる。結果がすぐに出る（おいしかったかどうか？）
- ・食が、衣食住で最も大事だと思った
- ・地元の食材を使った給食
- ・お味噌を子どもたちが作る
- ・遠足の費用を子どもたちが稼ぐ体験



ひより保育園  
<https://hiyorihoikuen.com/>



# そらのまち保育園 2018年



- ・ 商店街の中のビルにある、そらのまち保育園
- ・ 鹿児島市の中心部の商店街・天文館に保育園を作った
- ・ 園庭もない
- ・ 理想の保育園はどこでもできる、やり方をコピーしてほしいと思った
- ・ 特徴は、商店街の人たちとの交流
- ・ 園で使う食材の多くを商店街で調達
- ・ 子どもたちが買い物に行くなど、交流機会を増やした
- ・ 食を軸にしたコミュニティができていると実感

**小さな経済圏でのコミュニティづくり=SDGs（持続可能なまちづくり）**

そらのまち保育園

<https://www.solanomachi.com/>

## まとめと補足

- 古川様は、保育園だけでなく、企業の立場で、経済につなげることを意識したさまざまな取り組みを行っていることが特徴  
= 持続可能な取り組みで、持続可能な地方創生  
= 企業の立場で経済を意識した活動 = 持続可能

例)

- 日当山無垢食堂
- 耕作放棄地の問題に取り組み、70代が主役となっている地元の農業を見直したい
- 未利用魚（獲った魚の3割が廃棄されている）
- 県庁18階の会員制コワーキングスペース「souu」

日当山無垢食堂について



日当山無垢食堂

物産館のご案内



物産館



NPO法人 薩摩リーダーシップフォーラムSELF  
<https://self-kagoshima.org/>

# 6. 事例：島根県邑南町 ～ A級（永久）グルメ構想で 小さな町に23店舗のレストランオープン～



株式会社Local Governance  
代表取締役 寺本英仁氏

# 課題

人口約1万人、当時、**高齢化率35%→いまは43%**に上がってきている山里の地域。

人口流出、どこからも遠いまち、**消滅可能性都市**と言われ、このままでは、持続できない。



戦後、アメリカナイズされて、大量生産・大量商品の社会になってきた。JAができて、全国的に特に**小さな町の特産品がなくなってきた**。

米と白ネギはあったが、これは島根県としての特産品だった。

- 最初は、ネットを使って、外に地元のものを販売していこうと考えた
- 当方で3,000万円ほどの売上げがあった
- これって、外に売っていくという意味では、JAと同じでは？
- 販売できる物量が少ないという課題もあって、**ネット販売は持続可能ではない**



- 地元**に人が来てくれるようにしたい**
- 地元が元気になっていくような取り組みを行いたい
- まち全体をもっと変えていきたい

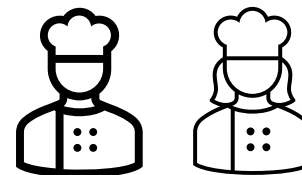
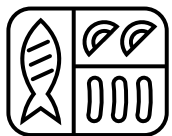
町から  
外へ

外から  
町へ

# 「食」をテーマに、住む人が増える仕組み

- 地方創生というと、教育、IT、芸術などを考えがち？

- 人が邑南町に来てくれる仕組みは？



## 食に注目

地方創生というと、教育、IT、芸術などがよくあるが、地域の人々の目線で考えると、これらは好き嫌いがある。「食」は嫌いな人はいない。寺本さんご自身も「食」には興味があった。

## 地元にレストランを作ろう

白ネギと牛肉。邑南町で特産品を作りたいと考えたが、邑南町に飲食店を増やすことをすれば、いろいろな食材が活用できると思った。

## シェフや従業員を集める

バブル崩壊後の国の補助金や制度を利用して、シェフ、ソムリエ、パティシエをスカウトした。地域おこし協力隊に着目して、従業員を集めた。



## 里山レストラン AJIKURA

### 「最高の食材は田舎にあります」

鳥根県西部・石見地方に位置する「A級グルメ」のまち、邑南町（おおなんちょう）中国山地の豊かな自然に囲まれた、小さな里山にイタリアンレストラン「AJIKURA」があります。

<https://si-ajikura.com/index.html>

# A級（永久）グルメ構想で、持続可能な地域づくり

## ■ A級（永久）グルメ構想、拡大へ



### 食の学校

他の地域から邑南町に来てくれた人や、地元の人たちに、料理を教える学校を作った。地域おこし協力隊で来る人も、**目的を持った人が集まりやすくなった。**

### 0円起業

空き家→地域で合同会社を作ってイタリアンレストランなど作る→シェフ募集→「食の学校」で勉強してもらってそのまま住んでもらう→合同会社は家賃をもらう

### 高齢者農家の応援・モチベーションアップ

地元の農家（65歳以上）の高齢者：少量多品目→JAに卸すのではなく、直接レストランに買ってもらえるようになった。道の駅（売上げ2億）にも卸せる出口があるので、モチベーションアップ。レストランにも食べに行く。

- ・ 邑南町に、23店舗がオープン
- ・ 3年間で870人がU I ターン（I ターンが増えるとU ターンが増える）
- ・ 全国5自治体と連携した「にっぽんA級グルメのまち連合」が発足
- ・ 「邑南町だけが元気」ではダメ。日本の田舎を元気にしたい！

一般社団法人 地域商社  
ビレッジプライド邑南

<https://ohnan.com/cuisine/>

## まとめと補足

- 「食」は、多くの人から賛同を得られるテーマ
- それでも、町の中には、2割の応援者、2割のアンチ、6割の無関心

2割の熱心な支援者、応援者を巻き込んでいければ成功できる  
その際、地元の人たちとの会話は、とても大事

- メディアの活用が大事（NHKのプロフェッショナル／クローズアップ現代 他）  
最初は、地元の新聞社の人との対話、意見交換から始める。（メディアすごろく）  
「月に1回、地元紙に出る」ことを目標にしてみる。  
以下の4つがポイント（組み合わせ、組み立てる）
  - ・誰もやっていないこと
  - ・コラボする（大学、生産者など）
  - ・課題を解決する
  - ・逆流する（B級グルメではなく、A級グルメ）
- 「SNS」の3点が大事  
S：スピード  
N：ネーミング（A級グルメ、耕すシェフ 倉音の宿 他）  
S：ストーリー（生産者さんたちとの会話から物語が生まれる）

# 7. まとめ



# サステナブルツーリズム（持続可能な観光）の今後

- JTBグループ様でも、すでに、サステナブルツーリズムの考え方で、さまざまな取り組み、サービスの提供がある

例) 国内初・環境配慮型・観光MaaS「日光MaaS」 \* MaaS  
(マース : Mobility as a Service)



## 日光MaaSのサービス概要

鉄道・バスをセットにしたお得なデジタルフリーパスのほか、EV・PHVカーシェアリングやシェアサイクル、EVバス等の環境にやさしいモビリティと歴史・文化・観光施設等の拝観・入場チケット、アクティビティ等の体験プログラムをスマートフォンから簡単に検索、購入いただくことができるサービスです。



- ・鉄道・バスをセットにしたデジタルフリーパス
- ・カーシェアリング、シェアサイクル、EVバスなど環境に配慮したモビリティ
- ・歴史、文化、観光施設のチケットもスマホ1台でワンストップで利用可能

- ・渋滞緩和、二酸化炭素排出量の削減に貢献
- ・環境にやさしい観光地「日光」のブランド化

出典：JTB  
<https://www.jtbbwt.com/government/trend/detail/id=2014>  
<https://press.jtbcorp.jp/jp/2021/09/maasnikko-maas-1028.html>

# サステナブルツーリズム（持続可能な観光）の今後

- 今後は、ますます、地域、企業、ホテル、旅館、交通機関等の  
パートナーシップ・共創が必要



- 旅行者も「サステナブルな旅行・観光・ホテル・旅館・サービス」を探している
- 今回ご紹介した5つの事例以外にも、地方創生に取り組む地域は、全国、世界中にたくさんある

事例1：群馬県庁様  
～官民共創コミュニティで地方創生～

事例2：群馬県 みなかみ町  
～自然と森を活かした地方創生～

事例3：北海道 浦幌町様  
～子どもと学校が主役・教育で地方創生～

事例4：鹿児島県霧島市  
～企業目線、経済を意識した地方創生～

事例5：島根県邑南町  
～A級（永久）グルメ構想、食での地方創生～

SDGs達成に向けた取り組み、サステナビリティな取り組みを推進して、**新しいサービス、新しい価値**を提案していくことが重要（情報発信も忘れずに）

**事業活動を通じて、同時に社会課題を解決する**考え方（CSV:共創価値の創造）に基づき、企業自信が持続していくことも重要（ボランティアではない）

ご清聴、誠に  
ありがとうございました。